



(R6.5.15)



# 医療福祉の地域創造会議 通信 第124号

第120回ワーキンググループ会議 (R6.4.25)



## 「訪問診療センター開設と専門医による訪問診療の取り組み」

\* 話題提供者：市立大津市民病院

理事長 河内 明宏 さん

### 参加者の声



- ・褥瘡など皮膚の問題はかなり深刻であるが、皮膚科医に往診をしてもらうのが大変困難であるため、とても有り難い。
- ・多職種連携として、ワンチームで取組まれている事がすばらしく、拠点病院としての機能を果たされている。
- ・開業医が在宅で診療したら、24時間365日の責務が生じるが、大きい病院のサポートがあれば、在宅医になるハードルが下がり、在宅診療を考える医師が増える。専門領域で、後方支援としてサポートしていただけるのは大変有り難い。
- ・多職種連携はつなぎ役が重要。それぞれの職種の役割の明確さと他職種につなぐ仕組みが必要。
- ・医師の働き方改革が進む中で、医師の休みを確保しながら在宅を行っていくのはとても難しいのではないかと。
- ・ICTを使った連携、顔が見える(分かる)関係の構築が必要。
- ・開業医と患者さんが築き上げてきた人間関係を壊さないように関わること大切。
- ・地域にあった仕組みや、地域に根差す、社会的需要に応えていく仕組み、持続性が大切。
- ・緩和ケア病棟のある病院が、入院希望者をギリギリまで在宅で診てもらえるとよい。緩和ケア病棟を持つ病院が在宅診療をしてくれるのは連携が取りやすい。
- ・地域医療のモデルケースとして、県がサポートする事も必要。

地域の皆さんや開業医の方々と共に、連携して地域医療を持続的に支えていきたい。この仕組みを育てていきたい。

10年後、20年後を見据えて、高齢化が進むにつれ、医療に求められる事も変化していくので、今から準備していく事が大切である。

### 次回ワーキンググループ会議

- \* 日 時：令和6年5月23日(木) 18:30~20:00
- \* 場 所：滋賀県庁 新館7階 大会議室 (Zoom可)
- \* テーマ：「終活と公正証書～遺言書を中心に～」
- \* 話題提供者：元大津公証役場 公証人 白髭 博文 様

### 地域とともに歩む病院

地域において職員が貢献する、そのために「地域に出ていく病院」になる!

(取り組み)

- ☆在宅診療センター
- ☆急病等の際の診療所の代診、診療補助
- ☆専門医、看護師の派遣
- ☆ドクターカー
- ☆コンシェルジュの導入

### 在宅診療センターの目標

在宅患者が入院時と同じようなケアを受けられるようにする!

マンパワーや業務の仕分けなど課題があるが、一つずつ解決していきたい。



令和6年度4月のワーキンググループ会議は、市立大津市民病院理事長の河内 明宏さんに話題提供していただきました。

専門医による訪問診療の取り組みという新しい在宅医療の在り方で、開業医のサポート体制が整い、在宅での多職種連携(チーム医療)の形が広く進む第一歩になるのではないのでしょうか。今回は、62名の方にご参加いただきました。実際、現場で患者さんと接する医療従事者、介護従事者の方々には切実な願いだと思います。看護・介護が必要な方と支えるご家族が、自分の人生を諦める事なく在宅で生き生きとした仕組みが必要ではないのでしょうか。

このワーキンググループ会議での、皆さんのご意見や感想が、未来が少しでも生きやすい世の中になる事につながる会議になりますように、積み重ねていきたいと思っております。

### 医療福祉の地域創造会議 事務局

(滋賀県庁 医療福祉推進課内)

Tel 077-528-3529

e-mail info@chikisouzoukaigi-s-higa.jp